

新型コロナウイルス感染症による医療機関への影響調査

(2020年5月診療分から10月診療分までの推移)

徳島県保険医協会では2021年5月診療分(6月請求レセプト)から会員医療機関に対し患者数の増減などについて継続的にアンケートを実施しています。これまでも単月毎にアンケート結果を協会ホームページに掲載し、必要な措置などを求めて国や県に対して要請を行ってきました。

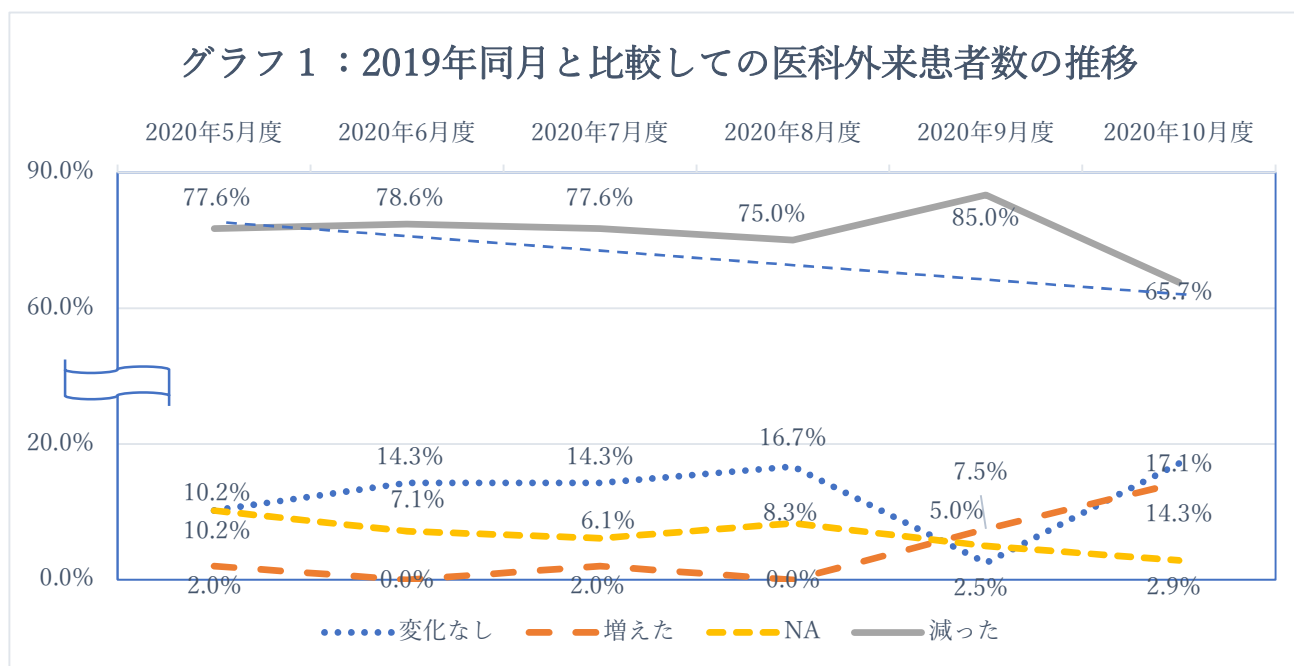
また、全国の保険医協会・医会からも国に対する要請の結果、十分とまではいかないまでも、財政面の措置を実施されるようになりました。

以下は徳島県保険医新聞2021年2月号に掲載した記事を補足してあります。グラフ等については、紙面はモノクロ印刷のため見やすく加工しています。また、補助線を破線で表し、改善を見やすくしています。

※5月にも影響調査を行いました。選択肢が異なるため比較することができず6月レセプト以降となっています。

医科の受診控え回復せず

医科においては、2019年度同月と比べて外来患者数(グラフ1、2)が減少したと回答した会員は77.6%ですが、9月には85.0%に増加し、10月には65.7%まで回復しています。

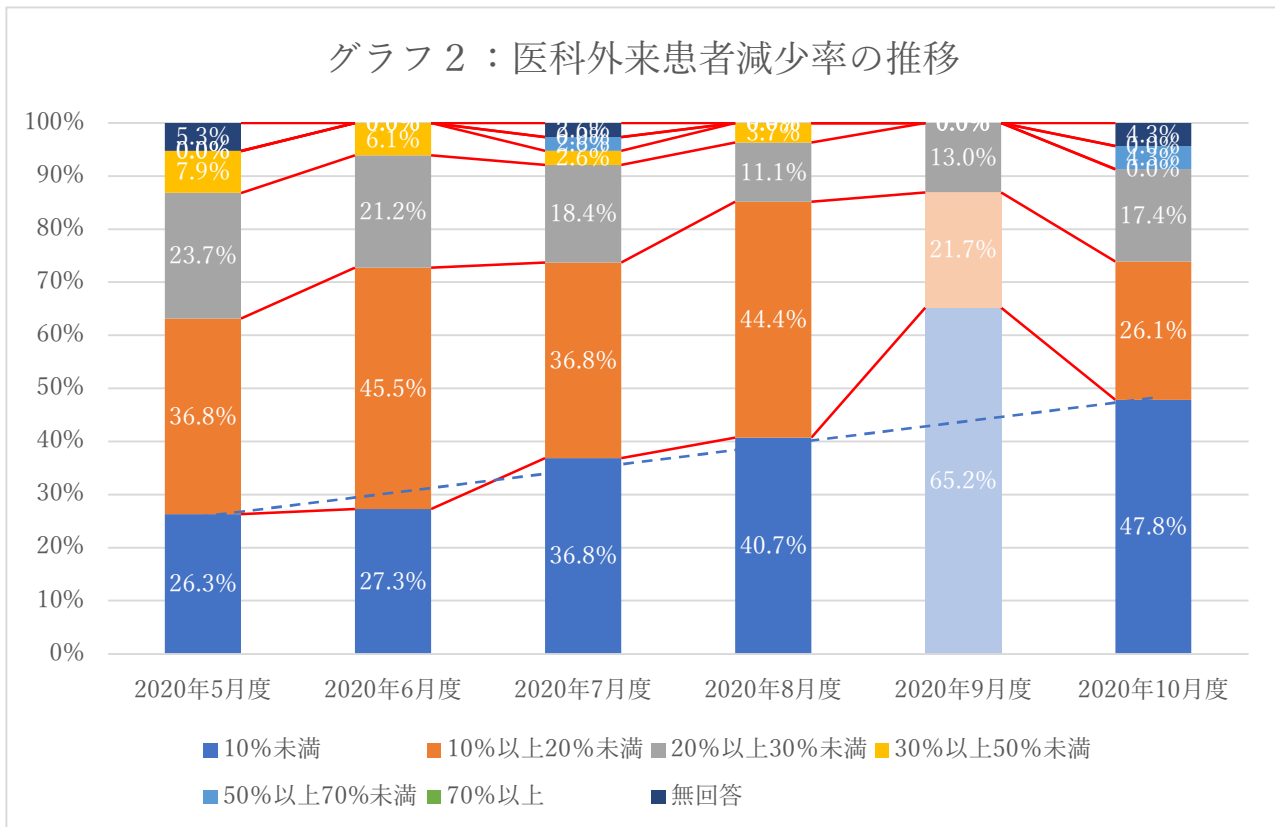


9月に外来患者数が減少したとの回答率が増加している要因は長期処方やオンライン診療の増加によるものと推察されます。10月についてはインフルエンザワクチン予防接種が始まったことにより患者数が2019年並みに戻っていると感じた医療機関が増えたと思われます(自由記載欄から)。

次に医科外来患者数が減少したと回答した中でも、減少率を見てみますと、5月は減少率が20%を超える医療機関の割合が31.6%あったが、10月には26.1%に改善しています。また、10%未満

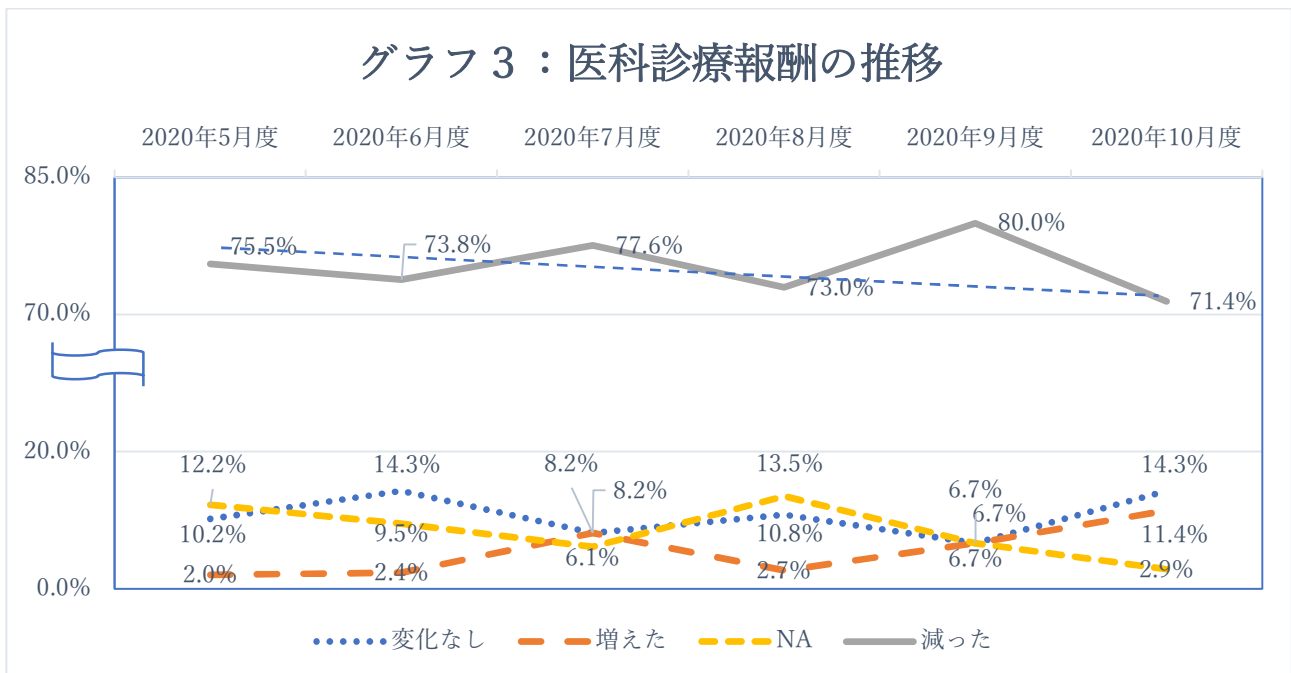
と回答している医療機関は 47.8%までに改善しています。

グラフ 2：医科外来患者減少率の推移



また、診療報酬（グラフ 3、4）に関する推移も患者数の増減と同様に推移していますが、10 月分については乖離があります。これは前出のインフルエンザワクチン予防接種は保険給付外のため診療報酬への影響には反映されませんが外来者数は回復しているように見えるためと考えられます。

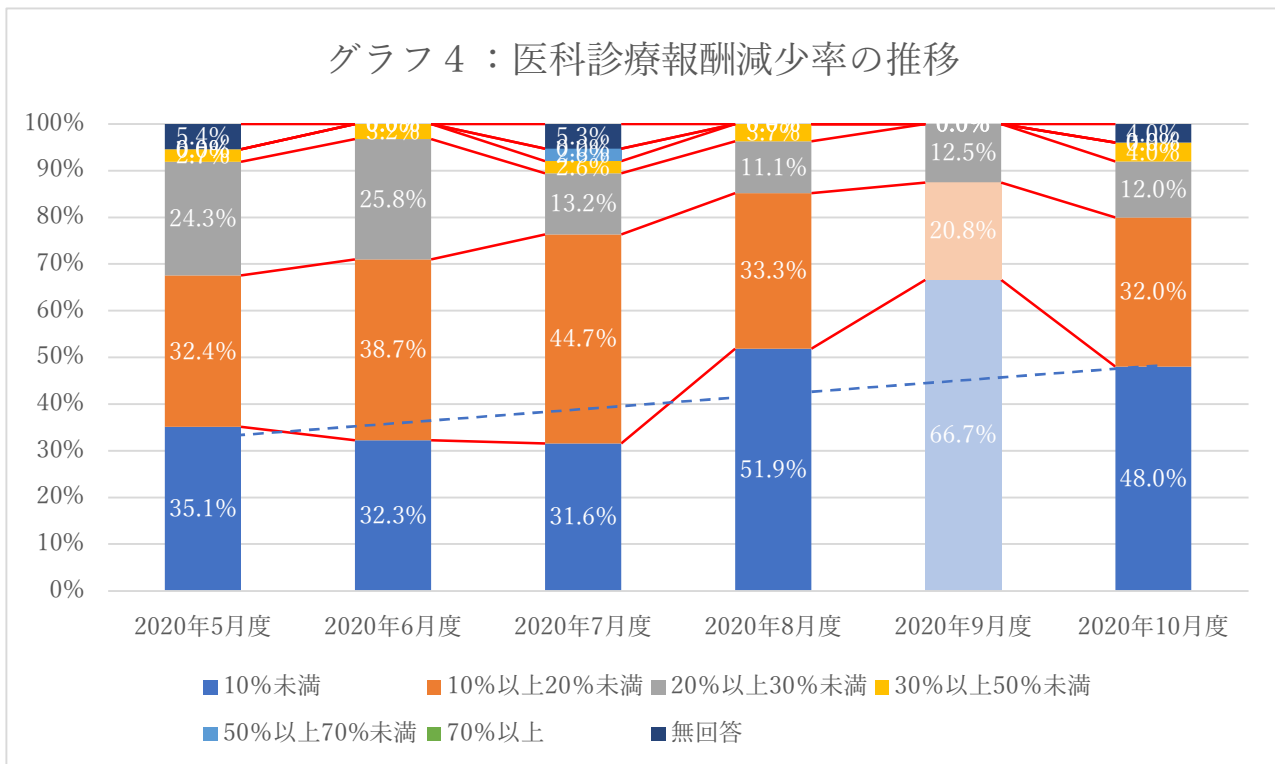
グラフ 3：医科診療報酬の推移



しかし、外来患者の減少率を見ても、患者数が減少したと回答していても減少率が 10 月

にかけて改善していることが読み取れます。

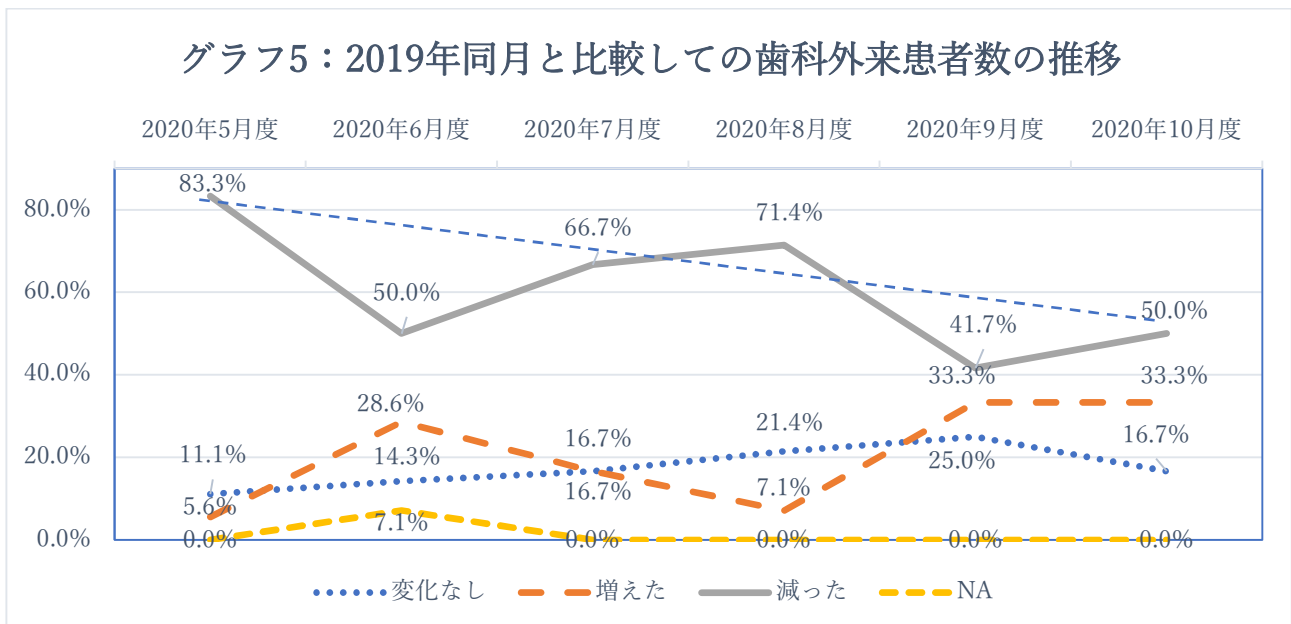
診療報酬の減少率では7月にかけて10%以上20%未満の割合が増えていますが8月は10%未満の割合が改善しています。



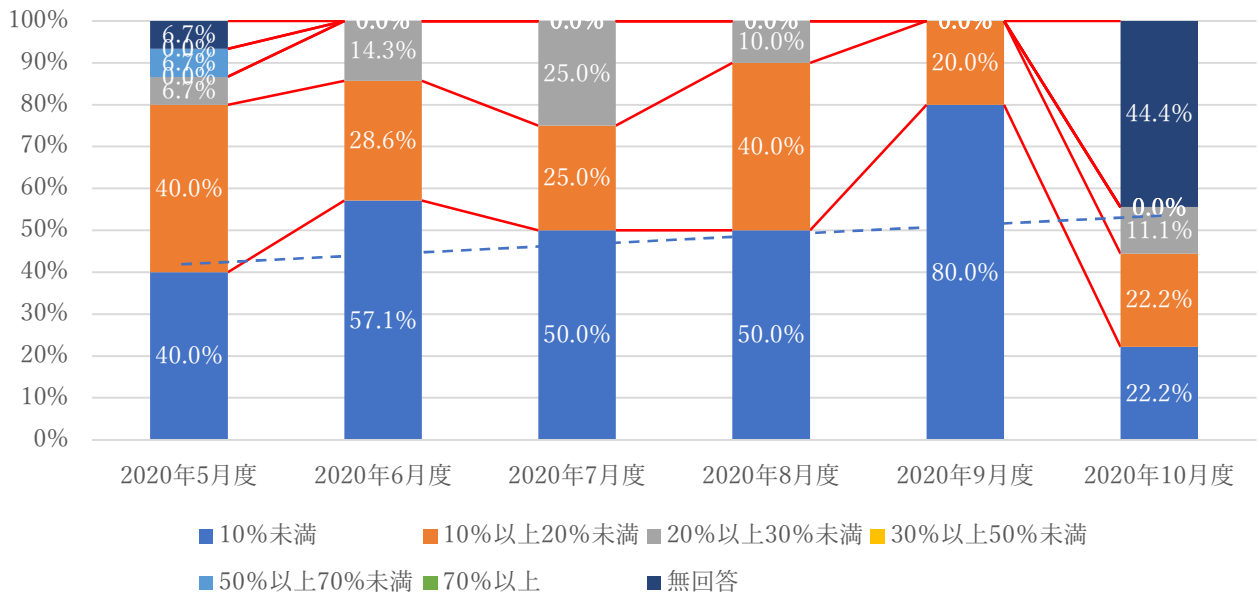
※9月診療分のアンケートについて回答率が他の5か月分と比較して低かったため、9月分は参考には除外してください。

歯科では少しずつ回復

歯科では患者数（グラフ5、6）は5月まで出されていた1回目の緊急事態宣言の影響と4月6日付事務連絡により83%にも上る医療機関で患者の受診控えが発生していました。6月には一旦回復しましたが、県内の感染者数が増加した8月にかけて受診者数が減少しています。



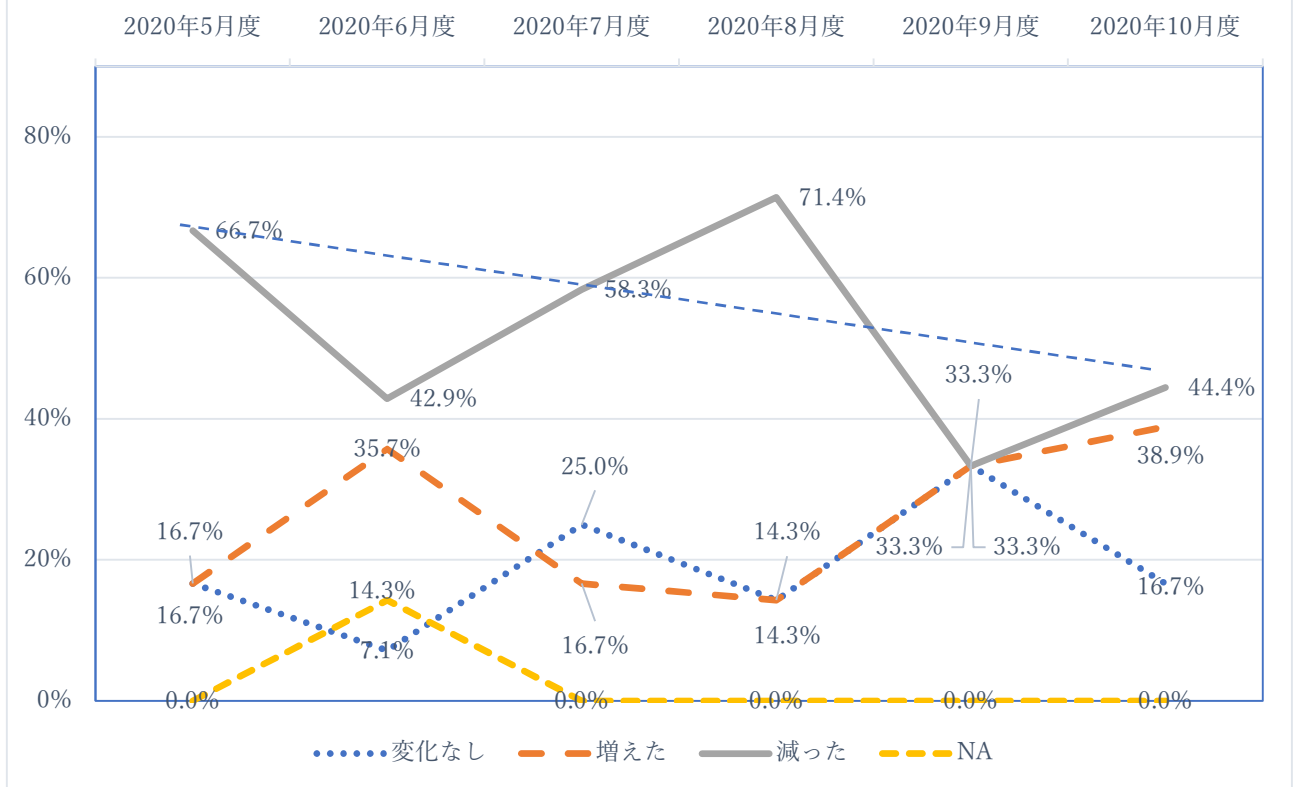
グラフ6：歯科外来患者減少率の推移



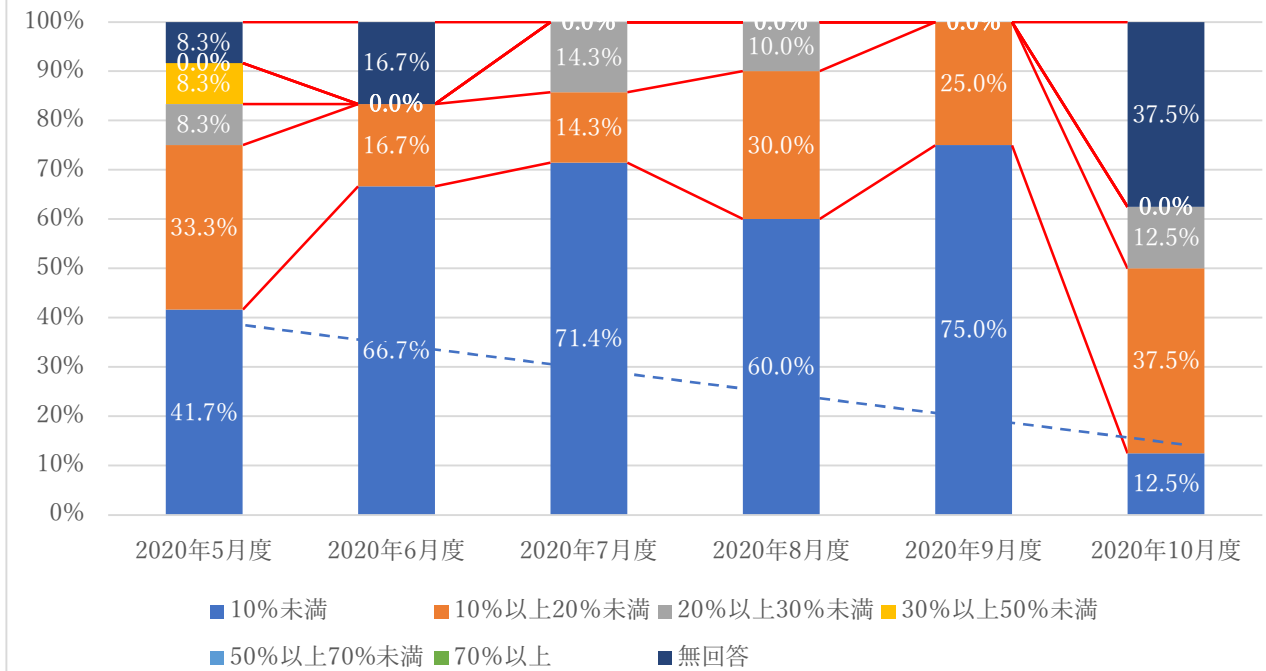
歯科診療報酬（グラフ7、8）は10月にかけて高い割合での減少率と回答した医療機関が減ってきており、回復傾向がうかがえます。

※歯科については回答数が少ないため一概には言えない点もあることをご理解ください。

グラフ7：歯科診療報酬の推移



歯科診療報酬減少率の推移



これまでのアンケートの自由記載欄についてはそれぞれのアンケート結果をご参照ください。

2021年2月6日